

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	教育委員会		
	課名	スポーツ振興課		
	係名	スポーツ振興係		
	記入者		電話(内線)	613

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]		継続		(2) 事務事業 の名称		中学校各種球技大会開催事業(スポーツライフ推進事業)				(3) 事業の 優先度		B			
(4) 総合計画での位置づけ						(6) 事業主体			市						
① 事業の区分		主要事業						(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	一般事業費(ソフト事業)					
② 施策コード		43102		(総合計画掲載ページ 123 ページ)					会計区分	一般会計					
基本目標(政策)		4未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文化)							財源区分	市単独					
基本施策		4-3誰もが楽しめるスポーツ・レクリエーション活動の推進(スポーツ)							予算科目	款 10		項 6		目 1	
施策		①スポーツ・レクリエーション活動環境の充実							予算書上の	中学校各種球技大会開催事業費					
施策内容		2各種大会の開催							事業名称	(予算書 181		ページに掲載)			
(5) 事業期間		開始		昭和		31		年		月から		(5) 事務分類		自治事務	
		終了				年		月まで(				根拠法令			

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象（だれに対して・何に対して行うのか）	(3) めざす姿（意図・どのような状態になるのか）
市内中学生及び近隣・近県の中学生と保護者達 市内体育協会専門部審判員	学校及び生徒間の相互交流を図るとともに、スポーツを通じて青少年の健全育成を図る。
(2) 手段（事業内容・どのようなことを行うのか）	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など （※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし）
茨城県・栃木県中学校女子バレーボール大会の開催 近隣中学校男子バレーボール結城大会の開催 近県中学校ソフトテニス結城大会の開催 近県中学校卓球結城大会 小山市・結城市友好親善中学生野球大会	青少年の健全育成とスポーツの普及発展を目的に、体育協会専門部及び小中学校体育連盟の連携協力が確立した昭和31年から開催された。小山市・結城市友好親善中学校野球大会については、平成26年10月に小山市と友好都市盟約を調印したことを機に、両市の交流・発展を図るため平成28年度に第1回を開催する運びとなった。
(5) 事業をとりまく環境の変化（社会環境、市民ニーズ等）や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	
例年開催している5月頃は、学校行事などが重なり、日程調整が難しい時期ではあるが、定着しているので、引き続き実施する。	

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映		
実施計画								
● 予算内訳		実績額（千円）		当初予算額（千円）		計画額・見込額（千円）		
事業内容		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度		
(1) 事務事業費	報償費	281	319					
	需用費	302	411					
	使用料及び賃借料	104	132					
	備品購入費	0	488					
	負担金及び交付金	0	65					
	合計	687	1,415					
	財源	国庫支出金（千円）						
県支出金（千円）								
地方債（千円）								
その他特定財源（千円）		282	288					
一般財源（千円）		405	1,127					
合計（千円）		687	1,415					
補助・起債制度名								

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）								
指標の名称			単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）								
指標名	開催種目数	目標値	種目		7	7	7	7
		実績(見込)値		6	7			
		目標値						
		実績(見込)値						
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）								
指標名	参加中学校数	目標値	校		160	160	160	160
		実績(見込)値		141	130	160	160	160
		達成率		88.1 %	81.3 %			
		目標値						
		実績(見込)値						
		達成率	%	%				
5. 事業評価								
(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。								
大会の日程や内容等について、各種目ごとに数回の打合せを行い、大会関係者と連絡を密にし、スムーズな大会運営に努めた。								
(2) 項目別評価								
評価項目・客観的評価				理由				
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	青少年の健全育成意および生涯スポーツの振興を図るうえで重要である。また、部活動の成果を発揮する機会であり、学校教育の一環を担っている。				
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	青少年の健全育成と体力の強化を図ることが目的であり、行政が積極的に関与する事業である。				
	手段の妥当性	A	妥当である	現在の手段が一般的である。				
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	参加校1校につき2,000円の参加費を徴収しているが、近隣市町村でも参加料を徴収している場合がほとんどであり、特に問題はない。また種目によっては、審判員数を見直す必要がある。				
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	参加中学校はもとより、地域住民にも広く便益を提供している。				
有効性	成果の向上	A	上がっている	参加者相互の交流や健全な心身の発達に寄与しており、成果は上がっている。				
進捗度	事業の進捗	A	順調である	数々の大会運営の実績がある体育協会専門部と小中学校体育連盟委員の協力により大会の進行、運営がスムーズに行えている。				
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。								
大会を通じて、参加中学校相互の交流と体力強化及び健全な心身の発達に寄与するとともに、日頃の練習の成果を発揮する場として、事業の意図は十分に達成されている。種目によっては、まだ終了時刻が遅くなる種目もあるので、再度、大会運営の方法を検討する必要がある。								
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？								
大会運営について市内中学校顧問、体育協会各専門部、スポーツ振興課で協議し、改善を図る。特に招待校の数や試合のセット数等見直しが必要。								
6. 事業の方向性判断								
評価主体		28年度以降の事業の方向性		評価理由・根拠				
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）		注）記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。				
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）		大会を通じて、参加中学校相互の交流と体力の増進、健全な心身の発達に寄与しており、今後も継続する。				
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う				上記評価のとおり。				